

15. 若齢ブロイラーで発生した鶏アデノウイルス感染症

豊後大野家畜保健衛生所 大分家畜保健衛生所¹⁾
○磯村美乃里・里秀樹・(病鑑)人見徹・木下正徳
病鑑 壁村光恵¹⁾・病鑑 山田美那子¹⁾

【はじめに】

鶏アデノウイルス(以下FAV)は封入体肝炎、筋胃びらん等を発症し、特にブロイラー農家で近年甚大な被害が数々報告されている。

2011年5月から6月にかけて、管内S市の2戸の農場において、FAVによる封入体肝炎が認められたので報告する。

【発生概要】

[A農場]21,000羽規模で、2011年5月30日入雛のチャンキー。10日齢で1日の死亡率が増加し14日齢でピークとなり発生から約7日後に終息、最終的な死亡率は約8%。

[B農場]18,000羽規模で、2011年6月17日入雛のチャンキー。10日齢で1日の死亡率が増加し発生から約5日後に終息、最終的な死亡率は約5%。

【材料及び方法】

A及びB農場について、鑑定殺後、細菌、ウイルス及び病理組織学的検査を実施。

[A農場]検体は14日齢3羽。また、21日齢で環境材料(糞便含む敷料、壁スワブ、給餌器内残渣物各2検体)を用いてウイルス検査を実施。

[B農場]検体は10日齢3羽。

【検査成績】

[A農場]①剖検所見：肝臓の退色・蒼白化及び腫大・脆弱化(3/3)。②細菌：有意菌の分離陰性。③ウイルス：肝臓(2/3)及び筋胃(2/3)からFAV分離、血清型は2型。肝臓、筋胃乳剤(3/3)からFAV特異遺伝子検出。敷料(2/2)からFAV特異遺伝子検出。④病理：脾臓(3/3)、筋胃(3/3)、肝臓(2/3)に好塩基性核内封入体、肝細胞の変性壊死(3/3)、筋胃粘膜のびらん及び潰瘍(2/3)。

[B農場]①剖検所見：肝の退色・黄変化(3/3)。②細菌：有意菌の分離陰性。③ウイルス：肝臓(2/3)からFAV分離、血清型は2型。主要臓器のプール乳剤からFAV特異遺伝子検出。④病理：肝臓(3/3)、脾臓(3/3)に好塩基性核内封入体、肝細胞の変性壊死(3/3)、脾臓の壊死巣(3/3)。

【まとめ・考察】

A及びB農場の症例は、FAV血清型2型による鶏封入体肝炎と診断した。

A農場では過去4年以内にFAV感染症の発生はない。B農場では2010年10月入雛のロットでFAV1型による筋胃びらんの発生があったが、本症例はFAV2型による発生であったので関連はない。

なお、A及びB農場には、出荷後、鶏舎等の水洗・消毒の徹底を指示したところ、その後の発生はみられていない。